

# 四中工 3年ぶり全国大会

## 高校サッカー県大会決勝

### 海星に1-0

第九十七回全国高校サッカー選手権県大会の決勝が十日、鈴鹿市の三重交通Gスポーツの杜鈴鹿であり、四日市中央工業（四日市市）が海星（同）に1-0で勝ち、三年ぶりに三十三回目の全国大会出場を決めた。全国大会は十二月二十日、東京都の駒沢陸上競技場で開幕する。

四中工は前半、海星の積



得点を決める森島選手＝鈴鹿市の三重交通Gスポーツの杜鈴鹿で

全国への道を切り開く勝利のホイッスルが鳴り響く。三年間、全国高校総合体育大会を含め全国大会から遠ざかっていた四中工の選手たちが、悲願の出場を決めて抱き合った。今季限りで退任する樋口士郎監督は優勝を決めた瞬間、涙を流し「監督人生で一番うれしい」と喜んだ。

樋口監督の采配がずばりの中。押し込まれて苦しい前半の時間帯に貴重な1点をもぎ取ったのは、海星対策として起用した今大会初スタメンの森島選手だった。「土郎さんを選手権（全国大会）へ連れて行く」。その強い思いを胸に、左足で落ち着いてゴールへと決勝点を流し込んだ。

森島選手はポジション取りがうまく、守備から攻撃に移る際の起点となる選手で、マンマー

## 樋口監督の采配の中

クでくる海星の守備を崩せると分析しての起用だった。決勝点に森島選手は「普段の練習から和田のクロスを用いていた。自分は合わせただけで、和田が点を取ったよつななもの」とほほ笑んだ。

十五回目の選手権に樋口監督は「ここ三年間結果が出ず、自分の指導が正しいのか悩んだ。地元で開催された今夏の全国高校総体の出場を逃してからは地獄だった」と振り返る。

つらい敗戦を乗り越え一回りたくましくなった選手たちを目をやり、「選手権を経験するとしないとでは、今後のサッカー人生は大きく変わる。選手を連れていけてよかった。四中工は県大会より全国の方が伸び伸びできるチーム」と話し、大舞台での活躍を誓った。

（西川拓）

## 初スタメン森島選手が得点

極的な攻撃の前に耐える時間が続いたが、34分、FW和田彩起選手（二年）の右からのクロスボールを、ゴール前に走り込んだFW森島秀選手（三年）が落ち着いて左足で合わせ、先制した。後半は互いに好機をつ

10本のシュートを放ったが、あと一歩及ばなかった。

想像以上の頑張り  
イレブンねぎらう

海星・青柳監督

くったが無得点に終わり、四中工が四日市勢対決を制した。海星は相手を上回る

○：二年ぶりの選手権（全国大会）出場を目指した海星は、何度も四中工ゴールを脅かしたが、1点が遠かった。名門校に立ち向

四中工は強かった」と述べた。

青柳監督は「一時期、四中工でコーチをし、コーチ時代の樋口監督とは共に選手を指導した間柄。海星に赴任した当初は四中工を目標と言えるようなチームではなかったというが、この日は積極的に攻めて互角に渡り合った。試合終了後、樋口監督と抱き合ったという「重圧が大きかったと思う